

令和5年度 総務文教常任委員会行政視察報告について

委員長	田中	雅光
副委員長	橋間	順平
委員	黒岩	重彦
委員	高木	良郎
委員	立山	稔
委員	井上	勝彦

標記の件について報告します。

【視察日】 令和5年10月25日
【視察先】 埼玉県久喜市
【視察項目】 久喜市版未来の教室について

埼玉県久喜市の「久喜市版未来の教室」について報告いたします。

久喜市では教育研究発表会が行われていた鷺宮小学校を訪れ視察研修を受けました。

まず、到着後すぐに教育研究発表の公開授業の様子を見学させていただき、その後に「久喜市版未来教室」の研修を受けました。

公開授業では2年生の「動け私のロボット」と題したプログラミング授業を拝見させていただきました。小さなキューブ型のロボットに簡単なプログラムを読み込ませて指定された進路を進ませるもので、子どもたちは絵本に示されたルートをグループで協議しながら、読み込みカードを並べ、ロボットに読み込ませていました。どのグループも楽しそうに取り組んでいました。こういったロボットを活用した授業は、興味を引き付け自然に論理的な思考が学べる仕組みとなっており全国で活用されています。

次に5年生の「すてきプロジェクト 日本のすてき大発見」の授業を拝見しました。ちょうどオンラインにより山梨県の小学校と交流授業を行っているところでした。埼玉県の魅力をどうしたら伝えられるかということで、事前に協議を重ねてきた結果、埼玉の伝統工芸である小川和紙について課題を絞り、その歴史や和紙の作り方、和紙にかかわる人へのインタビュー、動画の作成などいろいろなプロセスを経ていくことで、課題の編集や検索力、思考や表現力を高めていく工夫がなされていました。

久喜市版未来の教室では、「フォー+ワン」のコンセプトで、ICT教育をすすめており、

1. オンライン教育の充実
2. 個別最適な学びを提供
3. STEAM化された学び
4. 校務の効率化を実現 +1

この4項目をもとに学びのコーディネーターたる教師の育成を掲げています。

1. オンライン教育

シンガポールやオーストラリア等との交流授業や不登校者向けのオンライン分教室などを手掛け、オンライン授業を出席扱いにする規定も整えていました。

2. 個別最適な学び

客観的・継続的なデータに基づき指導の個別化、学習の個性化を進めエビデンスに基づくデータ駆動型教育への転換を目指しています。

3. STEAM化された学び

地域企業やGoogleとの連携により様々な教材提供を受け最先端の技術を実体験できる環境を作っており、児童生徒の問題解決型学習や探究的な学びにつなげています。

4. 校務の効率化

GoogleWorkspaceを活用して情報の共有、効率化を図っていました。既に校長会では2021年より紙資料は廃止しペーパーレス化が進んでいました。

久喜市は児童生徒へのタブレットは、GoogleChrome版を採用していたことからGoogleから様々な提案やコンテンツの提供を受けており、先進的な取り組みなども、こういった連携のもとに環境作りができ上がってきたようです。

令和5年度 総務文教常任委員会行政視察報告について

委員長	田中	雅光
副委員長	橋間	順平
委員	黒岩	重彦
委員	高木	良郎
委員	立山	稔
委員	井上	勝彦

標記の件について報告します。

【視察日】 令和5年10月26日
【視察先】 兵庫県小野市
【視察項目】 夢と希望の教育について

兵庫県小野市の「夢と希望の教育」について報告いたします。

小野市は小学校8校、中学校4校の小都市と似た規模の市でした。「夢と希望の教育」とは養育大綱にある「脳を鍛え夢と希望をかなえる学び」からきていて、これが表題になっているようです。

市は東北大学の川島隆太教授と連携し独自の「脳科学と教育」を理念とする「16か年教育」や「おの検定」など家庭教育から義務教育課程修了まで独自の教育路線を築いています。脳科学を基本に組み上げられた「おの16か年教育」では、16年を3ステージに切り分け発達段階に応じた取り組みを設定しています。

ファーストステージでは「-1歳から5歳」を対象に脳が爆発的に成長する期間を親子の触れ合いで多くのことを学ぶ時期だとして、家族の在り方やコミュニケーションの取り方、食事や脳トレなど効果的な取り組みを推奨しています。

セカンドステージでは「5歳から10歳」を対象に生活習慣や学習の基礎を固める時期と位置づけ、小学生からはおの検定が始まります。

サードステージでは「10歳から15歳」は主体的な学びを通し生きる力を育む期間としています。

妊娠期の家庭教育から始まり学校教育において、おの検定で脳を鍛え、心を育むというユニークな取り組みでした。このおの検定は市民へも積極的におこなわれています。脳は簡単な計算や音読を行うときに活発に働くということで、こういった検定を継続して行うことで基礎学力をつけ、子どもたちのやる気も高めていくということでした。

小野市では平成17年から毎年、川島教授を招き講演会をおこなっています。平成22年からは会場に5年生を集め、川島教授が持ち込んだ脳の計測機器で反応を見ながらおの検定の重要性を児童にも理解してもらっているとのことでした。

他にも小中一貫教育に力をいれていて、この取り組みもユニークなものがあります。

一部小中学校では6年生を中学校へ編入させる5・4教育に取り組んでおり、中一ギャップの解消や運動会も小中合同で行うとのことでした。こういったことがスムーズに行える背景には、教育委員会の改革への取り組みがあると思います。

最後に当時川島教授をつないだ元教育長が取り組んだ教育委員会改革が紹介されました。教育委員会が行ってきた学校定例訪問の廃止、夏休みに行う定例講演会の廃止、卒業式での委員会告示の廃止、市の指定研究制度の廃止しその予算を学校研究費として予算化し学校の裁量に任せています。また教育大綱の冊子を平易なカラーパンフレット化したりと、とにかく市民にもわかりやすい改革に取り組んでいました。